

2024年7月4日

加盟団体理事長 各位

公益財団法人日本バドミントン協会

会長 村井 満

アジアジュニア選手権試合中の死亡事故と再発防止に向けて

既に報道等でご認識の方も多いかと存じますが、2024年6月30日インドネシアで開催された「アジアジュニア選手権」における本国と対戦中の中国選手が試合中に突然倒れ、その場で心肺蘇生措置もAEDの使用もないまま担架で運ばれ、残念ながら心不全により病院で死亡が確認されました。

*別途メールにて試合中の状況が録画された動画も添付させていただきます。

将来有望な17歳の若い選手であり、深い哀悼の意を捧げます。

迅速な救命救急処置の実施が命を救います(救命処置が1分遅れると救命率が7~10%低下します)。この事故を繰り返さないためにも、本会として1種大会はもちろんのこと、加盟団体の皆様が大会を実施する試合会場において、選手、関係者がこのような事態に至らぬよう改めて以下の内容につき確認をお願いしたいと存じます。

〈大会運営上の確認事項〉

①今後開催地にて確認を徹底していただきたいこと。(今後、本会競技運営部が発行する運営マニュアルに掲載致します)

- ・会場内のAED設置場所及び充電状態など使用可能である事を確認する。
- ・大会関係者はAEDに関する基本的な知識を把握しておく。

(参考) <https://www.jhf.or.jp/check/aed/how/>

- ・会場内のAED設置場所を関係者、来場者に把握できるよう貼り紙等で告知する。
- ・可能であれば大会本部(ドクター席)に会場内AEDを持ち込んでおく。
- ・必ず大会ドクターまたナースを(可能な限り複数名)配置する。
- ・消防署や救急対応可能な病院への事前に連絡しておく。

②今後本会として実施を検討していくこと。

- ・大会関係者がAEDを用いた救急処置を理解するための講習会の実施。
- ・大会本部にAEDを常備する。

〈競技進行上の確認事項〉

今回、プレー中であつたといえども、選手の体調異変に気づいた審判や監督・コーチが直ちにプレーを

中断しなかったことや、審判や監督・コーチが、選手の意識消失について確認・把握しなかったといったことが見受けられました。本会審判部からは、プレー中においても、医師の到着を待つのではなく、人命を第一に行動することが求められました。

・プレー中に同様なことが生じた場合、医療関係者がコートに到着するまでに、選手の意識の確認や呼吸の有無の確認を躊躇せずに行い、状況に応じて応急処置をおこなうこと。

・仮に意識の確認等を行った後、状態が回復しプレーの再開が可能になった場合、選手に触れたことによる「失格」や「棄権」等になる規程は本競技にはなく、人命を第一に考えて行動をすること。

・選手に対して、プレー中に体調異変が生じた場合には躊躇せずプレーを中断・中止することを日頃から意識付けさせると共に、監督・コーチ等が選手の既往症等について把握しておくことが一層必要であること。

救急救命法等について講習会等の積極的な受講を奨励すること等、各加盟団体におかれましては、周知・啓蒙していただくともに、今後の大会運営に万全を期するように併せてお願いいたします。

本会としては医事部会、審判部会、競技運営部会等と連携し、競技規則、運用マニュアル、公認審判員行動規範などの再度見直しを図り、加盟団体の皆様に周知を行いたいと存じます。

若く有望な選手の死を無駄にせぬよう、皆様の大会運営を改めて見つめなおし、バドミントン競技の強化普及にお力添え賜りますよう、お願い申し上げます。

以上